

聖書の読み方

関口 康

序 「聖書の読み方」という問い

1、聖書のポピュラーな性格

一般書店でも販売されている（客観的・一般的）文書としての聖書
文書としての聖書を見つめる「キリスト者の視点」と「非キリスト者の視点」
聖書の多様な解釈・とりわけ「非キリスト教的」解釈（者）の不可避性
視点を選択することの必要性

2、改革派信仰に基づく聖書の読み方

宗教改革の三大原理における「聖書のみ」(ソラ・スクリプトゥーラ)の意味
もう一つの聖書原理としての「聖書全体」(スクリプトゥーラ・トータ)の意味
聖書と信条：絶対的規範(ノルマ・ノルマンス)と相対的規範(ノルマ・ノルマータ)
精密信条の必要性：なぜウェストミンスター信仰告白かという問いにもふれて
公同的・普遍的信仰(告白)に基づく聖書の読み方を重んじる改革派教会

3、神の啓示の道(三位一体の神から・教会を通して・わたしの人生の喜びまで)

ハイデルベルク信仰問答(吉田隆訳):

第21問

第65問

啓示の出発点としての「三位一体の神」

創造者なる「御父」の喜ばしきご意志が、この世界と

救済者なる「御子」(キリスト)を通して、

生命の与え主なる「御霊」において、
世界の中に、文書化された「聖書」を生み出し、
世界の中に、神のご意志を宣べ伝える「教会」を生み出し、
世界の中に、神のご意志を信じる「わたし」を呼び起こす。
この「わたし」が「御父」の喜ばしきご意志を受け取り（喜びに満たされ）、この世界の中で喜びに満ちた生活が始まるとき、神の啓示は本来の目的へと達成する。

神の関心は、この「わたし」とこの「世界」に注がれているのである！

4、旧約聖書と新約聖書との関係

契約と成就の関係

新約聖書（成就）から旧約聖書（契約）を見つめる

旧約聖書（契約）から新約聖書（成就）を見つめる

（日本キリスト改革派松戸小金原教会特別伝道集会、2002年10月20日）